

OriHimeを活用した特別支援教育活動

特別支援学校に通う生徒の学びを広げるために、テレプレゼンスロボット（※）OriHimeを活用した教育活動を実施しています。



※テレプレゼンスロボット…遠隔地にある人や物を近くにあるように感じながら、リアルタイムに操作・情報伝達することができる環境を構築するための技術を搭載したロボット

活動の概要

目的	テレプレゼンスロボット“OriHime”を活用して特別支援学校に通う生徒の学びを広げる
連携メンバーおよび役割	株式会社オリ研究所…OriHimeの提供、整備、機能改善 大阪府立藤井寺支援学校…授業実践の計画、実施 関西大学総合情報学部 久保田・黒上研究室…授業実践の補助、研究
活動地域	大阪府立藤井寺支援学校
活動期間	2015年～（継続中）

連携の経緯

特別支援学校に在籍する生徒は、緊急入院や長期入院を余儀なくされる場合がある。そのような入院時にも生徒が病棟のベッドサイドから支援学校の授業に参加できるように、OriHimeを活用した授業支援を行うことで大阪府立藤井寺支援学校教諭と関西大学総合情報学部の久保田・黒上研究室の研究者チームが合意したことが活動開始のきっかけ。現在は、入院時の利用だけでなく普段の授業実践でもOriHimeがどのように活用できるのかを試行錯誤しながら授業を実践している。



英語の授業でOriHimeとコミュニケーションをとる支援学校の生徒

テレプレゼンスロボットOriHime

大学の役割

久保田・黒上研究室では「ICTと新しい教育」をテーマに教育現場におけるICT機器の活用方法について日々研究している。本活動で利用しているテレプレゼンスロボットは、従来のロボットとは異なり、遠隔地にいる通話者がロボットを分身のように操作することで、あたかも同じ場所にいるような存在感を与える装置である。これまでテレプレゼンスロボットはビジネスの分野で在宅勤務支援などに用いられてきた。

本活動では、テレプレゼンスロボットを教育の中でも、とりわけ特別支援教育の中で活用する新たな取り組みに挑戦している。例えば、長期入院を余儀なくされた生徒がベッドサイドから授業に参加できるように、OriHimeを活用することなどである。OriHimeを支援学校の教室に配置することで、生徒は病室からタブレットを使って遠隔操作をして授業に参加することが可能となった。また、普段の授業でも生徒の学びを広げるため、OriHimeを活用している。英語の授業では人と話すことが苦手な支援学校の生徒がOriHimeを通して外国人講師と英語で交流する学習活動を実施した。このように、教育現場の問題と新しいテクノロジーを結び付けることが大学の役割であるとともに、本実践を通して得られた新たな知見が特別支援教育の発展に役立つことを期待している。

現場の声



・関本春菜（修士課程2年生）

この教育実践活動に取り組むなかで、教育現場におけるICTの可能性を感じました。なぜなら様々な制約を抱える生徒が在籍する支援学校こそ、ICTを利用することで生徒の学びの機会や場を提供することが可能になるからです。生徒の実態を理解する現場の教員と、様々なアイデアやツールを持つ研究者が連携することで現場の教育が発展していくのだと活動しながら実感しています。

成果

- （1）緊急入院、検査入院、長期入院する生徒の学習環境の提供
- （2）対面コミュニケーションの苦手な支援学校の生徒のコミュニケーション力向上
- （3）読売新聞での記事掲載（2016/03/23）

今後の展望

- （1）長期入院を余儀なくされた生徒の学習環境の向上
- （2）OriHimeを利用した新たな授業実践の検討・実施
- （3）OriHimeを支援学校に導入する際の留意点について整理

研究者の紹介



総合情報学部
久保田・黒上研究室
（くぼた・くろかみけんきゆうしつ）

大学院の課題研究科目「ICTと新しい教育」を担当する久保田賢一、久保田真弓、黒上晴夫の3名の教員と大学院生がアクティブラーニングをテーマに活動する研究室です。フィールドでの体験を重視した学習活動を展開し、学部生と連携した活動を進めています。研究室には、国内外で地域の人々と協働した課題解決に向けた活動に取り組むさまざまなプロジェクトがあります。